

「基本動作・礼式の基準」



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

使用にあたって

この冊子はこれまで指導者の定型訓練において行っていたものを、日常のスカウト活動における礼式と動作の「基準」としてとりまとめたものです。

「基本動作」と「集散法」は、各部門共通のものと、異なる内容と区分しましたが、スカウト活動特有のものについては、隊長ハンドブックを基に内容を集約し、一般社会、特に学校教育で使われているものについては、それらを参考として、内容を整理しました。

「旗の取り扱い方」については、国旗、隊旗、班(組)旗に分けて示しましたが、これらは、旗の大きさ、ポールの高さ、天候、用具の有無等によって異なる場合がありますので、最も多く用いられ、標準と思われる内容にまとめました。従って、これらが画一的な方法であるということではなく、あくまでも「基準となるべき内容」であることに留意されるようお願いいたします。また、備考欄、参考などの形でいくつかの例示をしてありますので、実施する状況に合わせて適宜採用することができます。

平成26年4月

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

目 次

I. 基本動作

1. (1)気をつけ・(2)休め・(3)すわれ	1
2. (1)敬礼	3
(2)立礼	5
3. 方向転換 (1)右(左)向け右(左)、(2)まわれ右	5
4. 行進法 (1)前へ進め、(2)止まれ	7
5. (1)握手	7
(2)スカウトサイン	9
(3)祝声	11

II. 集散法

1. 集合	13
2. (1)U字形・(2)円形・(3)ビーバーコール	13
(4)カブコール	15
(5)仲良しの輪	17
3. 縦隊	19
4. 横隊	19
5. 解散	19

III. 旗の取り扱い方

1. 国旗の掲揚法

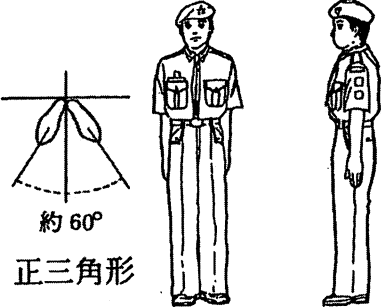
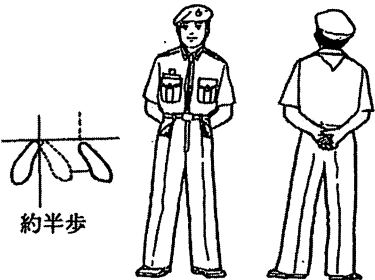


(1) 野外での掲揚法	① 国旗をひろげて掲揚する方法	21
	② 国旗を巻いたままあげて、上で開く方法	23
(2) 室内での掲揚法	① 三脚を使用する方法	25
	ア 国旗だけを掲げる場合	
	イ 国旗以外の旗と併揚する場合	
	ウ 掲揚・降納する際の“礼”の方法	

2. 国旗の降納法

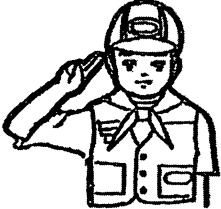

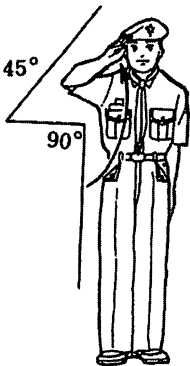
(1) 野外での降納法	27
(2) 国旗のたたみ方	29

3. 持ち方

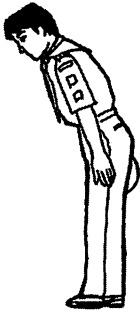





(1) 国旗の持ち方	① 行進法	31
(2) 隊旗の持ち方	① 気をつけ・休め	31
	② 敬礼	33
	③ 行進法	33
(3) 班(組)旗の持ち方	① 気をつけ・休め	33
	② 敬礼	33
	③ 持ち歩き方	33
	ア 行進する場合	
	イ ハイキングなどの場合(肩に担う方法)	

動作の方法	留意点・説明	備考
<ul style="list-style-type: none"> ○ 両かかとをつけて一線上にそろえ、つま先は自然に開く。 ○ 両ひざ、背すじを伸ばして直立姿勢をとる。 ○ 両腕は、体側にそってひじを伸ばしておろす。 ○ 手のひらは、指をそろえて軽くのばし、中指をおおむねズボンの縫い目にあてる。 ○ あごをひき、頭と首をまっすぐに保ち、口をとじ、目は正面をまっすぐに見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 胸を張り、両肩は力を入れずに均等におろす。 ○ 体重は、両足に均等にかける。 ○ つま先は等分に開き、約 60 度になるようにする。 <div style="text-align: center;">  <p>約 60° 正三角形</p> </div>	<p>※号令を発するのは、人数が多くなった場合であることを理解する(本来はサインです)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 左足を肩幅に開き、両ひざを軽くのばし、体重を両足に均等にかける。同時に手は後ろでベルトに添えて組む。 ○ 手のひらは後ろにむけて開き、左手の親指と四指で右手を軽く握る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私語をしたり、動いたりしてはいけない。 ○ 通常、儀式のとき等に用いる。 ○ 上体は基本の姿勢のままである。 <div style="text-align: center;">  <p>約半歩</p> </div>	<p>「楽に休め」 休めが長時間におよぶ場合にはこの姿勢をとることもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 肩の力をぬき、手のひらは軽く握ったまま、下の方へさげ、基準になる右足は常に不動の位置に置き私語をしてはいけない。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 右(左)足を一足分、後ろに引いてしゃがみ、かかとの上に尻を乗せた姿勢をとる。 <div style="text-align: center;">  </div>		<p>「腰をおろして休め」 「すわれ」が長時間におよぶ場合においてこの姿勢をとることもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 腰をおろし、両ひざをそろえて軽く曲げ、手はひざのやや下方で、ひざがしらかかえこむように組む。 <div style="text-align: center;">  </div>

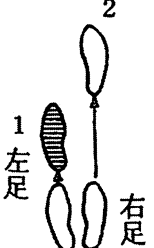
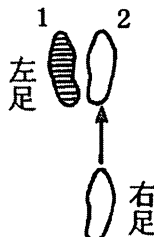


区分	動作	合図・号令	手の合図	指揮者
ビーバースカウト	2-(1) 敬礼	「敬礼」 「なおれ」		
カブスカウト				
ボーイスカウト以上				○ 前を向いたままで号令し、号令と同時に「敬礼」「なおれ」をすることもある。

動作の方法	留意点・説明	備考
<ul style="list-style-type: none"> ○ 右手の人差し指と中指をつけたまま伸ばし、上腕部を curve、人差し指を右目の横につける。 ○ 二本の指の腹を少し見えるようにする。 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 右手の人差し指と中指を広げ人差し指の先が帽子のひさしにつくようにする。 ○ 目は相手の目を見る。 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 姿勢を正しく受礼者(受礼点)に注目し、スカウトサインと同じく、右手で三指をつくり、つばのない帽子または、無帽のときは右目の上の額に人さし指の先が触れるようにする。 ○ つばのある帽子のときは、人さし指と中指の間を右目の右上と帽子のひさしとの交点付近になるように、手のひらをやや外側にむけて、快活にあげる。 ○ ひじは、肩の方向にほぼその高さを等しくする。 ○ 手の上げおろしは、最短距離をとるようにする。 	<div style="text-align: center;">  </div> <p>※受礼者の礼が終わった時に「な おれ」の動作をして元の姿勢となる。</p>	<p>※姿勢を正す敬礼 「気をつけ」の応用として必要ある場合適用する。</p>




区分	動作	合図・号令	手の合図	指揮者
	2-(2) 立礼	「礼」 「なおれ」	① 「〇〇に礼」と発する。 ② 指揮者は(1)の「敬礼」 「なおれ」に同じ。	○ 気をつけの姿勢で、 受礼者に対してから、 上体を約 30 度前に傾ける。 ○ 帽子は右手に持ち、 内側をももに向けて 垂直にさげ、左手は ももにつけてたれる。 ○ 静かに上体をおこす。
	3 方向転換 (1) 右(左)向け右(左)	「右(左)向け— 右(左)」 (注) 明朝文字は予令、 ゴシック文字は動令を表す		
	(2) まわれ右	「まわれ—右」		

動作の方法	留意点・説明	備考
<ul style="list-style-type: none"> ○ 気をつけの姿勢で、受礼者の正面に向かって、上体を約 30 度前に傾ける。 ○ 副帽を持っているときには、右手に前ひさしをつまみ、内側をももに向け垂直にさげ、左手はももにつけてたれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 室内で脱帽時に多く用いる。 ○ 受礼者の正面に向かって相手の目を見る。 ○ 上体を傾けるときの、背が曲がらないようにする。このとき視線は自然に床におちるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上体と両手、腕をぶらぶらさせないこと。「気をつけ」の時と同じ。
<ol style="list-style-type: none"> 1. 左(右)かかとと、右(左)つま先をわずかにあげ、左(右)の足のつま先に力を加え、右(左)足のかかとで右(左)へ 90 度回る。 2. 左(右)足を、右(左)へ引きつける。 	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>第1動作</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>第2動作</p>  </div> </div>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 右足を約 1 足の長さを斜め後ろ(右足の向いている方向)に引く。 2. 両足のかかとを軸にして、180 度右に回り後ろに向きをかえる。 3. 右かかとを左かかたとに引きつける。 	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>第1動作</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>第2動作</p>  </div> </div>	<div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>第3動作</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 右足を引く場合、体重が前に残らないようにする。 ○ 右足は、わずか左かかとから離れるように引く。

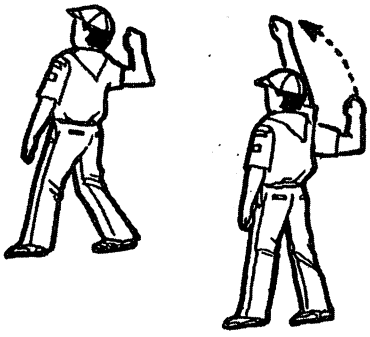
区分	動作	合図・号令	手の合図	指揮者
共通	4 行進法 (1) 前へ進め	「前へ一進め」		○「前へ進め」の号令をかける
	(2) 止まれ	「全体一止まれ」		○「全体止まれ」の号令をかける
ボーイスカウト以上	5-(1) 握手			
ビーバースカウト				
カブスカウト				

動作の方法	留意点・説明	備考
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「前へ」の予令で気をつけの姿勢になる。 ○ 「進め」の動令で、左足から踏み出して歩き始める。 ○ 上体は自然に起こして胸をはり、腰と膝を伸ばし、足はかかとから着くようにし、腕はひじを伸ばして前後に自然に振り、頭をおこしあごを引いて前方を見るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ つま先をまっすぐ進行方向に向けて歩く。 ○ 腕は、肩の高さよりやや低めになるぐらいに自然に振って、足をそろえて歩くようにすることが望ましい。 ○ 前の者の腕の振りを見て、歩調が違っているときにはツーステップの要領で足を踏み換えてそろえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ビーバースカウト隊では、拍子に合わせ、縦の列を乱さないで歩けるようにする。 ○ カブスカウト隊では、歩調をそろえて正しい姿勢で歩けるようにする。 ○ ボーイスカウト隊およびベンチャースカウト隊では、距離・間隔に注意し、縦・横の列や歩調をそろえて正しい姿勢で歩けるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「全体一止まれ」の合図で前に一步踏み出し、次の足を引きつけてかかとをそろえ、つま先を開いて止まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「止まれ」の合図は、右足が着地したときに掛け、左・右の2動作で止まるようにする。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 左手の握手。 ○ 左手の親指と人差し指の間および薬指と小指の間を開け、他の指を揃え、互いに組み合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一般の人が右手で握手するのと同じように親しみの気持ちを込めて行う挨拶である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 握手は仲間と親しみの気持ちを込めて行う挨拶ですが、この年代では特別なやり方は適さず、その機会も少ないので特に定めない。握手の必要があれば、通常の右手の握手をすることにする。 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手と向かいあい右手を伸ばし人差し指と中指を相手の右手首の内側につけ、残りの3指で相手の手を握る。 		



区分	動作	合図・号令	手の合図	指揮者
ビーバースカウト	5-(2) スカウトサイン		ビーバースカウトサイン	
カブスカウト			カブサイン	
ボーイスカウト以上		「スカウトサイン」		

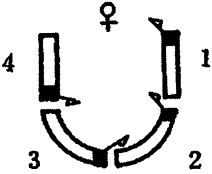
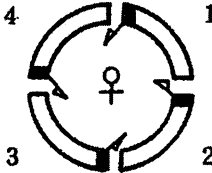
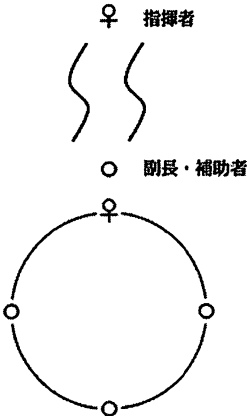
動作の方法	留意点・説明	備考
<p>○ ビーバースカウトのサインは、敬礼と同じ指の形をし、下図のように右腕を垂直にたてて行う。</p> 	<p>○ ビーバースカウトサインは、ビーバースカウトのやくそく、ビーバー隊のきまりを唱えるときに用いる。</p>	
<p>○ 「気をつけ」の姿勢で、右手を肩の上にまっすぐのばし、人差し指と中指を広げ、他の指はかるく握る。</p> <p>○ 目は前方を見る。</p> 	<p>○ カブサインは、カブスカウトのやくそく、さだめを唱えるときに用いる。</p>	<p>○ 二指をつくった右手をまっすぐに伸ばして、スカウトを静かにさせるとき、注目させたいとき等に用いることもある。</p>
<p>○ 気をつけの姿勢で、右手で三指をつくり、右腕を横に肩と水平にあげ、前腕を上方に曲げ上腕と垂直になるように伸ばす。</p> 	<p>○ スカウトサインは。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) “ちかい”をたてる時 (2) “ちかい”を唱える時 (3) “おきて”を唱えるときなどに行う。 	<p>○ 三指をつくった右手をまっすぐに伸ばして、スカウトを静かにさせる時、注目させたいとき等に用いることもある。</p>


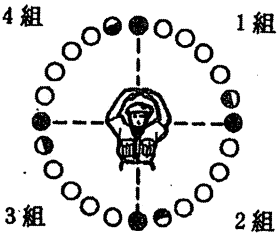

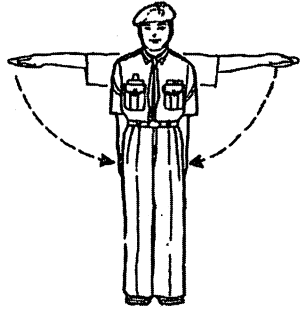
区分	動作	合図・号令	手の合図	指揮者
共通	5-(3) 祝声 (ア) いやさか (弥栄)	「いやーさか」 (3 回くり返す)		
ビーバー スカウト	(イ) おめでとう ビーバー	「おめでとうビー バー」		
カブスカウト	(ウ) ウォーウォ ーウォー	「ウォー」 (3 回くり返す)		

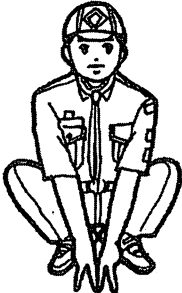
動作の方法	留意点・説明	備考
<ul style="list-style-type: none"> ○ 発声者が発声の位置についたら、各員は「いやさか」の用意をする。 ○ 帽子を右手にとって持ち、発声者の「いやー」で、右足を体の後方にひくと同時に、右手を後方へ引いてかまえる。 ○ 目は受礼者または正面を見る。 ○ 「一さか」で右手(帽子)を勢いよく頭上にふり上げる。これを3回くり返す。 ○ 最後の「さか」で、右足を左足にそろえて元の姿勢にもどり、帽子をかぶる。 ○ 左手は体側にそえ、自然にふるまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 受礼者に正対するのではなく、斜めに対することになる。 ○ 3回目は最も大きく動作・発声する。 ○ 受礼者は敬礼をして受ける ○ 「いやさか」で答礼する場合は、3回くり返す。 ○ このとき、祝声を送った側は全員で拍手を送る。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 帽子をかぶったまま、片足(右足)を半歩さげて右手にこぶしを握り、右ひじを曲げ、右肩の後方に引く、握りこぶしを前方斜め上に突き出す ○ 祝声を受ける側は敬礼をして受ける(答礼)。 ○ 祝声を受ける側が終わったら、受礼者は答礼する。動作は祝声と同じ「ありがとうビーバー」と元気よく1回行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ このとき、祝声を送った側は全員で拍手を送る。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 受礼者に向かって正面を向き、右足を半歩後ろに引く。 ○ 帽子をかぶったまま、右手にこぶしを握り、ひじを曲げ、右肩の後方に引く。 ○ 発声者のかけ声、例えば「○組おめでとう」「ウォーウォーウォー」と3回元気良く叫ぶ。このとき「ウォー」に合わせ、握りこぶしを前方斜め上に突き出す。 ○ 祝声を受ける側は、敬礼して受ける。 ○ 祝声が終わったら、受礼者は答礼をする。動作は祝声と同じ「ありがとう、ウォー」と元気良く1回行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ この祝声は、相手への激励や感謝の意を示すときに行う。 <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ このとき、祝声を送った側は全員で拍手を送る。 	

II. 集散法

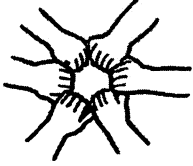
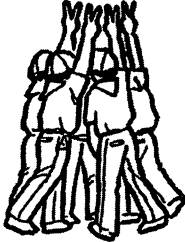
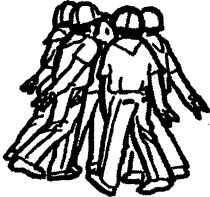
区分	動作	合図・号令	手の合図	指揮者
共通	1 集合	「集合」 「——……」 (号令)		○ 指揮者は集合の合図をし隊形を示す手の合図を行う。
共通	2-(1) U字形	「U字形に集合」		○ 頭上で、両腕をU字になるように腕を伸ばす。
	2-(2) 円形	「円形に集合」		○ 頭上で、両指先を合わせ円を作る。
ビーバースカウト	2-(3) ビーバーコール	「集合」 「ビーバー集まれ」 …隊長 歌「みんなで大きな輪をつくろう」 (歌から続けて) 「ビーバー」…隊長 「ビバ・ビバ」…スカウト 「ビーバー」…全員 「こんにちは」 「さようなら」		縦隊動作 手を横に広げるスカウトと手をつなぐ つないだ手を下へ 上へ→下へ 上へ(飛び上がり手を離す) 「こんにちは」といって敬礼

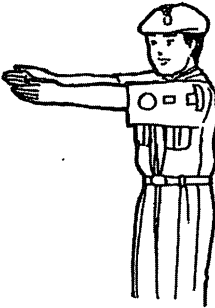


動作の方法	留意点・説明	備考
<ul style="list-style-type: none"> ○ 集合の隊形は、特に指示するもののほかは、通常、手の合図によるものとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 指揮者の位置 指揮者は、通常指揮掌握および訓練に最も適切な位置で指揮を行う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 指揮者の位置より、やや前方で、各班 1 列、内側を向いて、U 字形をつくる。 ○ 整列のしかたは横隊に準ずる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 隊形は、指導者側に口を開く形をとる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 指揮者を中心に、そのまわりを各班 1 列、内側を向いて正しい円形をつくる。 ○ 整列のしかたは横隊に準ずる。 		
<ul style="list-style-type: none"> ① 「ビーバー集まれ」と元気に呼びかけ、指導者は縦隊に集める。 ② 隊長・副長は端のスカウトと手をつなぎ「みんなで大きな輪をつくろう」を歌いながら前後に手を振りながら円形に変える。 ③ 歌が終わったらビーバーコールを行う。手を下ろし全員で敬礼をし「こんにちは」などと指揮者が声をかける。 	<p>このとき列順位はなく、早いものから 2 列に並ぶが、<u>川をイメージしている</u>ので列は曲がっていてもよい。</p> <p>これはダムを表す。(参照「森の仲間」)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ビーバーコールは簡単であり、みんなで手をつなぎあつて、声をあわせて大きく呼ぶとビーバーと指導者の心をひとつにできるので、集会の開会や閉会のときに仲間のあいさつとして用いると効果的である。 ○ ビーバースカウトについては「集合」とせず「集まれ」と号令する。 ○ 閉会のときも、同様のコールを行う。

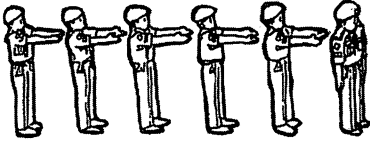
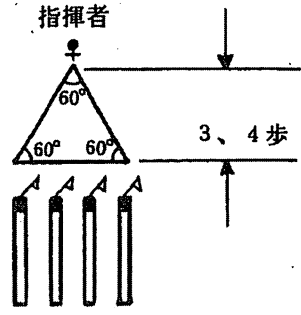


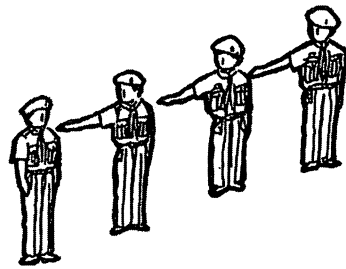
区分	動作	合図・号令	手の合図	指揮者
カブスカウト	2-(4) カブコール 【集合】	「パック・パック・パ ック」	<div style="text-align: center;">  <p>小さい輪</p>  <p>4組 1組 3組 2組</p> <p>例=●組長 ○次長</p>   </div>	

動作の方法	留意点・説明	備考
<ul style="list-style-type: none"> ○ パック・パック・パックと歯ぎれよく、スカウト達に呼びかける。同時に両手を頭上に上げ円をつくる。指先はふれ合わせるか少し重ねるとよい。 ○ スカウト達は、「ウォー」と元気よく呼応し、指揮者のまわりに互いに肩がふれ合う程度の小さい輪になる。指揮者の後ろに1組の組長、組員～次長、2組の組長の順に時計まわりに各組が並ぶ。1組の組長の右となりには4組の次長が位置する。 ○ 指揮者は指先をはなし、両腕を横にのばしながら水平になるまでおろしていく。 ○ スカウト達は指揮者の腕の動きに合わせて後ろにさがりながら輪を広げる。 ○ スカウト達は指揮者を中心にきれいな大きな輪を作ったのを確認してから、水平にのばした両腕を下までおろす(この際、両手に2指を作る)。 ○ スカウト達は指揮者の両手のさがるのに合わせてしゃがみ、ひざを開き、その間に両手で2指をつくり、その指先を地面につける。 ○ スカウト達がしゃがみ、落ち着いたら指揮者は立ったまま呼びかけるように周りを見渡ししながらカブコールをする。 ① りすスカウトは“指揮者”が「りーすー」と歌った後すぐに「りすー」と歌う ② うさぎスカウト歌う「うさぎー」 ③ しかスカウト歌う「しかー」 ④ くまスカウト歌う「くまー」 ⑤ 「月の輪」より全員で歌う ⑥ “指揮者”に続き今度はスカウト全員で唱和「ウォー・ウォー・ウォー」の最後のウォーで両手を上に伸ばしながら、全員元気良くとび上がる。着地してから指揮者に敬礼する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ パックで1呼吸おいて、パック、パックと続けて呼ぶ。 ○ 指揮者とは原則として隊長か副長である。 ○ 指揮者は自分を中心にきれいな小さい輪ができるように注意する。 ○ 手はあまり早くおろさぬようにし、スカウトの動きを見ながら円がくずれないように留意する。 ○ 徐々に手のひらをかえしながら水平にしていく。 ○ 両手はゆっくり下げる方がよい。 ○ 組長のもっている組旗はカブコールに入る前にデンコーチ(またはデンリーダー)があずかり、カブコールが終わったら組長に返す。 ○ スカウトの顔は指揮者を注目したままこの姿勢をとらせる。 ○ しゃがむのはカブスカウトのみである。 ○ 歌い方はいろいろ考えられる。はじめから終わりまで全員で歌ってもよい。 ○ 指揮者はカブコール中、上体をまわしながらスカウト達を見わたす。 ○ 指揮者も最後の「ウォー」でとび上がる。着地と同時に両手をおろし気をつけの姿勢を取り、それからカブスカウト全員の顔を見ながら敬礼をする。 	<p style="text-align: center;">  </p>

区分	動作	合図・号令	手の合図	指揮者
カブスカウト	2-(5) 仲良しの輪	「デン、デン、デン」		○組長が「デン、デン、デン」と声をかける。

動作の方法	留意点・説明	備考
<p>○ 組員は「ウオー」と叫びながら、仲良しの輪をつくる。</p>  <p>① カブスカウトたちは、お互いの手が握りあえる程度に内側に向かいあい小さな輪をつくり、左手の手のひらを下にして前に出し、親指をのばした握りこぶしをつくる。</p> <p>② 右側のスカウトが左側のスカウトの親指を次々に握り、握りこぶしの輪をつくる。</p> <p>③ 体を右斜めにし、右足を半歩後ろに引き、カブサインのように指先をのばした右手を上へ伸ばす。</p>  <p>④ 全員大きな声でそろって「○組」次に「いつも」といいながら右手を斜め後ろに引き「げ」で右腕を高く上にあげ「ん」でまた右手を後ろに引き「き」で腕をもう一度上に振り上げ左手の輪を解きながら両手を上に振り上げ、とび上がる。</p>  <p>⑤ 着地と同時に両手をおろし気をつけの姿勢をとり、お互いに敬礼をする。</p>	<p>○ 時にはデンコーチも仲良しの輪に入れてもらうこともよい。(主導者は組長)</p> <p>○ こぶしの輪ができれば、足を動かさないようにする。</p> <p>○ 組長が「○組」と呼んで仲良しの輪をリードすると動作がよく揃う。</p>	<p>○デンコーチが —例— 「みんなで仲良しの輪をやろう」と合図をする。</p> <p>○ 「いつも」「げ」「ん」「き」のリズムは、カブスカウト歌集「いつも元気」の最後の「いつもげんき」と同じテンポで元気よく行う。</p>

区分	動作	合図・号令	手の合図	指揮者
共通	3 縦隊	「縦隊－集合」		○ 両手をまっすぐに前に伸ばす
	4 横隊	「横隊－集合」		○ 両腕をまっすぐ横に伸ばす
		「片手間隔横隊－集合」		
ボーイスカウト 以上	5 解散	「わかれ」		○ 胸の前で肘を張り、指先が触れる程度に合わせた状態から手を斜め下に振り下ろす。

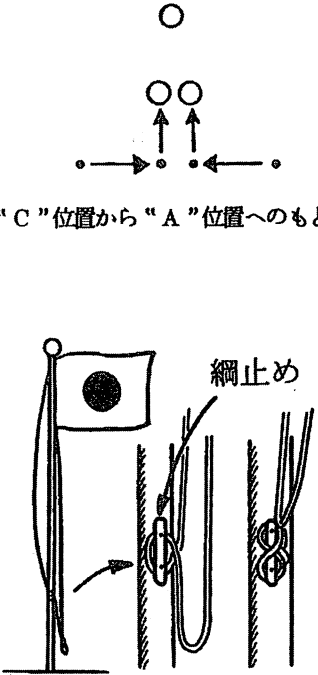
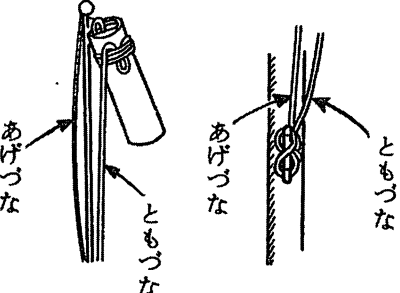

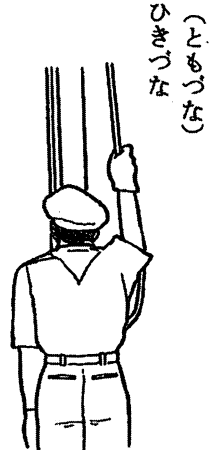
動作の方法	留意点・説明	備考
<ul style="list-style-type: none"> ○ 指揮者に向かって前列の帰順者(通常班長)は、すばやく指揮者の前3・4歩の距離をとって定位置につく。 ○ その他の班員は、これを基準として、正しく距離をとって縦隊をつくる。 ○ 隊員は基準列の者を基準として、正しい間隔をたもつ。 ○ 最前列の隊員は、間隔をとるために、右手をあげて(片手間隔横隊で)右にならうが、この際、後列の者は、前列の者にならった後、右列にあわせて前後の間隔をとる。 	 <p>○前の者との距離は約1mとする。</p>	<p><班縦隊></p> 
<ul style="list-style-type: none"> ○ 班ごとに1列横隊の隊形をとる。 ○ 集合の際は、特に指示のない限り指揮者に向かって最右端者(基準者)を除き、右手を腰にあてて、短間隔をとる。 ○ 四指をそろえてのばし、手のひらを下にして親指と他の四指の間に腰をはさみ、手首を軽く下げ、右の者にふれるまで間隔をとり、これにならう。(ひじは体と一線になるように張る)。 ○ 最右端の者を除き、各員は正しい間隔をとり右にならんだならば、直ちに(号令を待つことなく)右の者から逐次腕をおろし、頭を正面にもどす。 ○ この際、最右端の者は前方を直視したままている。 ○ その他は、集まれと同じ。 		<p><班横隊></p>  <p>○ 通常、横隊に整列するときには短間隔をとる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ 右腕を肩の高さに水平に上げて、手のひらを下に向け、指をそろえて伸ばす。 ○ 各員は、最右端者を除き、頭を右に回し、自己の指先と右の者の肩とがわずかに触れるようにならう。 ○ 最右端の者を除き、各員は正しい間隔をとり右にならんだならば、直ちに(号令を待つことなく)右の者から逐次腕をおろし、頭を正面にもどす。この際、最右端の者は前方を直視したままている。 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 隊員は、指揮者に対し各自敬礼をして、分かれる。この場合、各個人勝手に分かれるのではなく、班長等の指示を待って統一ある行動をとり、次の作業等に向かって、軽快に行動する。 		<p>(注)ビーバー・カブについては、閉会セレモニーの中で行うこととする。</p>

Ⅲ. 旗の取り扱い方

区分	動作	合図・号令	手の合図	指揮者
共通	1 国旗の掲揚法 (1) 野外での掲揚法 ① 国旗をひろげて掲揚する方法	「国旗掲揚」 「上げ」		

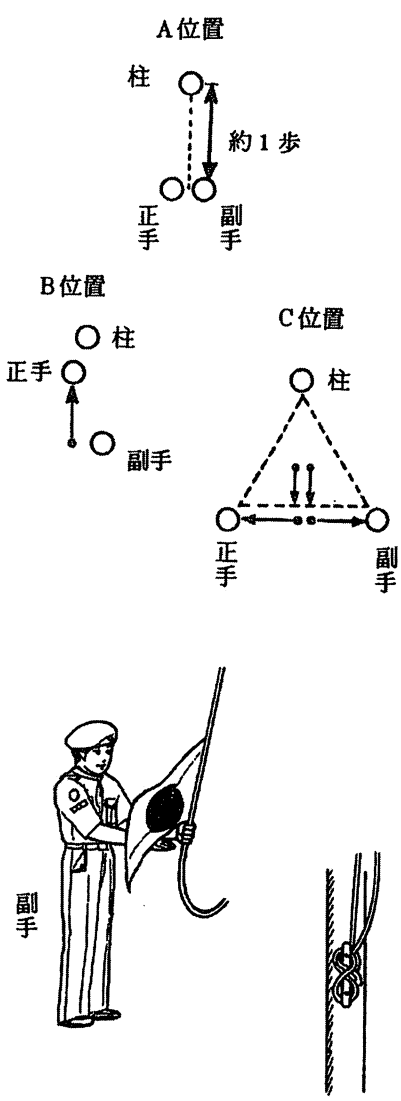
動作の方法	留意点・説明	備考
<p>① 前準備: 国旗を担当者より受け取り、掲揚柱(以下単に柱という)にロープを2本いっしょにして国旗とともに綱止めにからませておく。ただし、雨天時または、セレモニーによっては掲揚時に結ぶこともある。</p> <p>② 「国旗掲揚」の指示で掲揚手2名は1歩前を出て、進行方向に向き直り、柱に向かって駆け足で進む。</p> <p>③ 柱の前で止まり、柱の方に向く。この時、柱との間隔を約1歩分あける。以下この地点を“A”位置と呼ぶ。柱に向かって左側の者を正手、同じく右側の者を副手と呼ぶ。</p> <p>④ 正手のみ柱に1歩進み(以下この位置を“B”位置と呼ぶ)綱止めからロープと国旗をはずし“A”位置に戻る。</p> <p>⑤ 正手はロープのもつれ、よれを直し国旗をつけたロープ(とも綱)を副手に渡す。正手はもう一方のロープ(あげ綱)を持つ。</p> <p>⑥ 正・副手は1歩後ろに下がり、1歩横に開く。真上から見て、柱と正・副手は正三角形の頂点の位置についたことになる。この位置を“C”位置と呼ぶ。</p> <p>⑦ 副手は国旗を開き(国旗がたたんだまま揚がらないように注意する)国旗の下端を、ロープとともに左手でつかみ、右手で国旗の下部をかかえるように支える。正手はロープを少し引いて、国旗の上端を副手の頭頂近くまで引き上げる。</p> <p>⑧ 正手は左手でロープをつかみ(ゆるまないよう注意する)右手をあげて準備のできた事を知らせる。右手の指は5本ともまっすぐ伸ばし、3指をしたり、握りこぶしにしない。</p> <p>⑨ 正手は、「上げ」の指示で右手・左手で交互にあげ綱を滑らかに引き、国旗が冠頭につくまで上げる。(伴奏音楽がある場合は、これに合わせる)。</p> <p>⑩ 国旗が冠頭まで揚がったら全員敬礼をやめる。(また、担当者が「直れ」の指示をする)「直れ」指示後(指示のない時は一呼吸おいて)正・副手は1歩前を出て“A”位置に戻る。正手はロープがゆるまないよう注意する。</p>	<p>○ 掲揚(降納)手は国旗儀礼の主役である。きびきびした動作とスマートネスに心掛ける。</p> <p>○ 大きい移動の時には「駆け足」。方向を変える時には「まわれ右」「右(左)向け右(左)」。正・副手のタイミングが大事(正手が号令をかけてもよい)。</p> <div data-bbox="643 571 839 795" data-label="Diagram"> </div> <p>○ 副手は決して柱に近づかない。つまり“B”位置に決してつかない。</p> <p>○ 正手の動作が多いが、副手も同様に重要である。正手のみが動作中の時、副手は直立不動でまっすぐ前を向いていること。</p> <p>○ 動作は自信を持って。まごつかないよう、十分練習しておくこと。特に掲揚の際、他人のつけた国旗をはずすのは、まごつくことが多いので、掲揚手みずから準備するほうが望ましい。</p> <div data-bbox="546 1265 931 1825" data-label="Image"> </div> <p>(参考) 上記のものを基本とするが、国旗が特に大きい場合については、副手も“B”位置に進み正手の補助をする場合がある。</p>	<p>B位置</p> <div data-bbox="1093 436 1301 683" data-label="Diagram"> </div> <p>C位置</p> <div data-bbox="1093 772 1324 1086" data-label="Diagram"> </div> <p>(参考) “C”位置については上図を基本として行うが、条件によっては他の方法等についても考えられる。(下図)</p> <div data-bbox="1085 1288 1324 1568" data-label="Diagram"> </div>

区分	動作	合図・号令	手の合図	指揮者
共通	② 国旗を巻いたままあげて、上で開く方法	「国旗掲揚」 「ひらけ」		

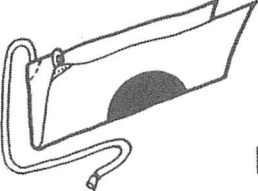
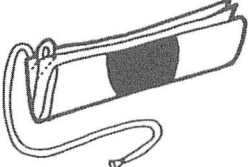
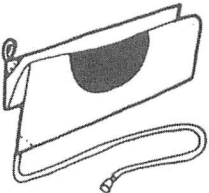
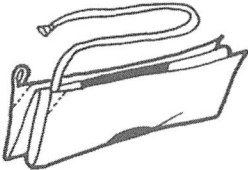
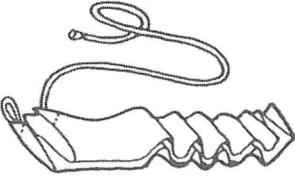
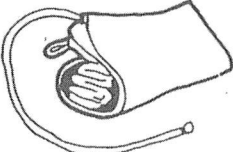

動作の方法	留意点・説明	備考
<p>⑪ 正手はあげ綱を綱止めに1回巻いてから、副手からとも綱を受け取り、2本合わせて綱止めに8の字に巻き、端末を始末する</p> <p>⑫ 正手は“A”位置に戻り、副手に合図を送って2名そろって国旗に向かって敬礼をする。 両者その場で右向け右をし、駆け足で隊列の自分の位置に戻る。</p> <p>⑬ 国歌「君が代」を歌う場合は、全員国旗に向かったまま待機し、掲揚手が戻ってから歌いだす。「君が代」以外は司会の合図で中央を向き歌う。</p>	<p>○ 大会・ジャンボリー等、ポール・旗の大きさや参加人員の規模によって掲揚法は異なるので、注意する。</p>	 <p>“C”位置から“A”位置へのもどり方</p>
<p>○ 掲揚手は、巻いた旗をそのまま「あげ綱」にとりつけ、事前に掲揚柱の冠頭いっばいであげて「あげ綱」を綱止めに1回巻いた後、2本のロープをそろえ、8の字に巻き、始末しておく。</p> <p>① 掲揚手は号令で国旗掲揚柱の真下に進み、右手を真っすぐ上に伸ばし、ともづな(引き綱)をしっかりとつかむ。</p> <p>② 「ひらけ」の号令で、掲揚手はつかんだ「とも綱」をぐっと引いて開く。</p> <p>③ 全員、国旗に対して注目し、敬礼する。</p> <p>④ 掲揚手は綱から手をはなして1歩下がり国旗に敬礼をする。</p> <p>⑤ 隊員は、掲揚手が敬礼を終わる動作にあわせて、敬礼を終わる。</p>	 <p>(注) 国旗を巻いたまま上であげてから開く方法を行う場合には、索端のヒモを上からさしこみ、ヒモの重さで旗が開かないように留意する。</p> 	 <p>(ともづな) ひきづな</p> <p>(部門共通) 次の場合「開け式」を使う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪天候の場合 ・紐が寄り綱の場合 ・掲揚ポールが短い場合

区分	動作	合図・号令	手の合図	指揮者
共通	(2) 室内での掲揚法 ① 三脚を使用する方法 (ア) 国旗だけを掲げる場合			
	(イ) 国旗以外の旗と併揚する場合 (日本国旗と外国機を併揚する場合)			
	(ウ) 掲揚・降納する際の “礼”の方法 「ご起立をお願いします」 「国旗に対して礼」			

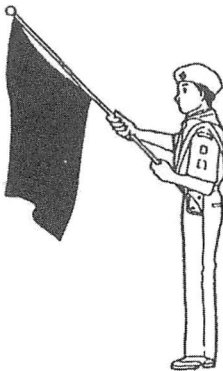
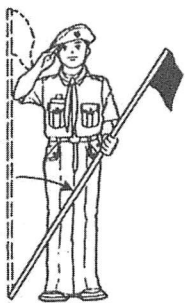


動作の方法	留意点・説明	備考
	<p>○ 冠頭のついた旗竿に国旗をつけ、これを三脚台にさしこみ、演壇に向かって左側に置く。</p> <p>(注)国旗は、旗竿と冠頭がそろって完成される。</p>	<div data-bbox="1090 320 1265 645" data-label="Image"> </div> <p>○ 国旗は通常三脚に直立させる。</p> <p>○ 演壇の中央に置く場合もある。</p>
	<p>○ 外国旗に敬意を表すときには、外国国旗をステージに向かって左(上位)にあげ、日本連盟は右にあげる。</p> <p>○ 通常の場合には、上位(左)に日本国旗がくる。</p>	<p>○ 日本国旗と外国国旗を交差する時は、上位の国旗の旗布が左になるようにし(旗竿の足は右になる)竿と竿との接点は、上位の国旗の旗竿の方がステージに向かって手前になる。</p>
<p>○ 全員は、起立脱帽し立礼する。</p>		<p>○ セレモニーによっては、この後「国歌」斉唱と続く。</p> <p>○ 着帽して行うか、脱帽して行うかは、担当者の指示に従って行う。</p>

動作の方法	留意点・説明	備考
<p>○ 掲揚法のほぼ逆順で行う。通常、野外での国旗降納は、降納手2名、指揮者1名(上級班長・副長等)によって行う。 降納手および指揮者は正装で行う。</p> <p>① 「国旗降納」の指示により、降納手2名は柱の前“A”位置に進む。</p> <p>② 正手の合図で2名そろって国旗に敬礼する。</p> <p>③ 正手が一步前を出て“B”位置につき、柱よりロープをはずし、“A”位置に戻って副手にとも綱を渡す。ロープをはずす時に渡す方のロープを確認しておく事(正手はあげづな、副手はともづなを握る)。</p> <p>④ 正・副手は“C”位置につき、正手が右手をあげて準備のできたことを知らせる。</p> <p>⑤ 「おろせ」の指示で、副手はとも綱をゆっくりと引く。 降ろす速度は、初めゆっくり、だんだん速くする(号笛の合図により、作業中の者は、その場で作業を中止し敬礼を行う)。</p> <p>⑥ 完全に国旗が降りてから、“A”位置に戻りロープから国旗をはずす。(主に正手ははずし副手は国旗を支える。国旗が地面につかないよう注意する)。</p> <p>⑦ 正手は2本のロープの輪を結び、1歩前を出て“B”位置につき、柱にロープを8の字にからませる。</p> <p>⑧ 正手は“A”位置に戻り副手とともに国旗をたたむ。</p> <p>⑨ 指示された方法で国旗を返却する。</p>	<p>留意点・説明</p>  <p>(参考) 国旗のたたみ方(巻き方)については項目を改め「(2) 国旗のたたみ方」の中に記載する。</p> <p>(参考) 国旗が特に大きい場合やロープが丸い場合については、副手も“B”位置に進み国旗が「おろせ」の合図以前に下がらないように正手の補助をすることも考えられる。</p>	<p>備考</p> <p>(参考) “C”位置については左記図を基本として行うが、条件によっては他の方法等についても考えられる。</p> <p>(注) 上記のものを基本とするが状況により、ロープから国旗をはずさず、柱にロープと国旗とを一緒に結びつけ、正・副手、まわれ右をして、駆け足で隊列の自分の位置に戻る方法をセレモニー進行上行うことがある。</p>

区分	動作	合図・号令	手の合図	指揮者
共通	(2) 国旗のたたみ方			

動作の方法	留意点・説明	備考
○ 旗竿から旗をはずしたら、きれいに折りたたみ格納しておく。横長の両端を2人で持って、次のようにたたむ。	 <p style="text-align: right;">図 1</p>	
① 国旗の裏を内側にして、横に2つ折りにたたむ。(図1)	 <p style="text-align: right;">図 2</p>	
② これをさらに横に2つ折り(計4つ折り)とする。(図2)	 <p style="text-align: right;">図 3</p>	
③ タレヒモつきの方をはなす。(図3)	 <p style="text-align: right;">図 4</p>	
④ つぎに、その表を中側にしておる。(図4)(これで表が全部内側に入る。裏表簡単な見分け方は、ロープの縫い込みか、旗布の周りのミシンの縫い込みを見るとわかる。)	 <p style="text-align: right;">図 5</p>	
⑤ すそのほうからアコーディオンのようにたたんでいく。(図5)(旗布にぬいこんだロープの上端の輪が、中に入るように巻き、タレヒモが外になるように巻く。)(図6)	 <p style="text-align: right;">図 6</p>	
⑥ 最後は、タレヒモを図のようにまいて、止めておく。(図7)	 <p style="text-align: right;">図 7</p>	<p>(注)左記を基本として行うが、旗の大きさによって、たたみ方が異なる。</p>


区分	動作	合図・号令	手の合図	指揮者
共通	(2) 隊旗の持ち方 ②敬礼	「敬礼」		
	③行進法	「全体、前へ進め」 (注)太字の部分 を聞いた後動作 に移る。		
共通	(3) 班(組)旗の持ち方 ①気をつけ・休め	「気をつけ」 「休め」		
カブスカウト以上	②敬礼	「敬礼」		
	③持ち歩き方 (ア) 行進する場合			
	(イ) ハイキングなどの場合(肩に担う方法)			

動作の方法	留意点・説明	備考
<p>○県連旗・隊旗等の場合、根本(石づき)を旗手ベルトの受け袋の位置に左手でおさえ、右手をのばして前方にかたむける。</p>		<p>○行進中も同様の動作をする。いずれも「敬礼」の号令があった時である。</p>
<p>○国旗の捧持法における行進法(3-(1)-①)を参照のうえ行う。</p>		<p>○行進の目的、人数、時間によって、また演出上から主催者の指示する内容によって持ち方は異なる。</p>
<p>○隊旗の捧持法(3-(2)-①)における「気をつけ」「休め」を参照のうえ行う。</p>		
<p>○右手に持っていた班(組)旗を左手に持ち替えて、敬礼をする。石づきの位置はそのまま(右つま先前)。 ○右図を参照のうえ行う。</p>		
<p>○班(組)旗を、腰の位置で固定し、地面につかないように注意し、行進する。 ○行進中も旗竿が垂直に保たれるように注意する。 ○右図を参照のうえ行う。</p>		<p>○行進の目的、人数、時間によって、また演出上から主催者の指示する内容によって持ち方は異なる。</p>
<p>○班(組)旗を、肩に担い周囲に注意をはらいながら持ち歩く。 ○右図を参照のうえ行う。</p>		<p>○行進の目的、人数、時間によって、また演出上から主催者の指示する内容によって持ち方は異なる。</p>



基本動作・礼式の基準

平成26年4月発行

発行  公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟

〒113-0033

東京都文京区本郷1-34-3

電話：03-5805-2634（教育部）

ファックス：03-5805-2908

e-mail：training@scout.or.jp
